

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-64

学校名・団体名	名古屋市社会科研究会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	ともに生き合う社会を目指す 子どもたちの社会科学習
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>平成28年度全国小学校社会科研究協議会研究大会名古屋大会の開催に向け、御器所小学校とほのか小学校の各会場において、プレ公開授業を6月、プレ大会を10月に実施し、社会科学習を発信していく。</p> <p>大会主題「ともに生き合う社会を目指す子どもたちの社会科学習」のもと、教材化、学習過程、学習活動の3つの柱で実践研究を行い検証していく。</p>	

1 研究のねらい

平成28年度全国小学校社会科研究協議会研究大会名古屋大会の開催に向け、御器所小学校とほのか小学校の各会場において、プレ公開授業を6月、プレ大会を10月に実施し、社会科学習を発信していく。大会主題「ともに生き合う社会を目指す子どもたちの社会科学習」のもと、教材化、学習過程、学習活動の3つの柱で実践研究を行い、検証していく。

2 実践の概要

【4～5月】

プレ大会に向けた授業検討会（教材化・学習過程・学習活動の工夫）

【6月 プレ公開授業】

6月23日（火） ほのか小学校 社会科公開授業（4・6年） 会場校研究推進部への指導

【文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 澤井 陽介氏による指導講評】

〈関わる段階の話し合いの場面の設定：4年 松本先生の実践について〉

子どもたちの提案に根拠となる事実があるのかどうかの問題である。例えば、「リサイクルボックスの利用度が何%だから、もっとPRする必要がある」など、よりどころとなる事実や資料を提示する必要がある。

〈追究のめあてをもつ場面の設定：6年 山本先生の実践について〉

予想させることは大切である。ただ、「自分だったら、どうするのか」なのか「当時の時代背景を考えて予想させるのか」子どもたちは意見をつなげていたが、予想させる（考えさせる）基盤を統一させなければ、予想を練り上げることは難しい。

6月24日（水） 御器所小学校 社会科公開授業（3・5年） 会場校研究推進部への指導

【文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 澤井 陽介氏による指導講評】

〈学級全体で学習の見通しをもつための「学級作戦表」の活用：3年 堀田先生の実践について〉

子どもたちには「なぜなら～だから」と予想させたい。フライを作っている理由を予想していくと、「揚げたてがおいしいから」「調理をしないですむから」「油のしまつは大変って、ママが言っていた」等、消費者のニーズがでてくる。そして、「揚げたてのフライがあるのは、調理しないで、すぐに食べられるからだ」と予想をまとめることができる。理由まで予想させると、追究する視点となる。

〈考えを明らかにする意思表示板とネームプレートの活用：5年 相澤先生の実践について〉

意思表示板とネームプレートの活用は、「社会認識を深めるためか」「自分の学習の振り返りのためか」をはっきりする必要がある。また、5年では、愛知県という地域の課題を解決するためには、愛知県の現状を資料として出してこないといけない。日本の農業の課題を資料にしてしまった。全国もこうだが、愛知も同じ状況なのだという証拠を出してほしい。

【7月～10月】

10月のプレ大会に向けた授業検討会（教材化・学習過程・学習活動の工夫）

【10月下旬 プレ大会】

10月24日（土）ほのか小学校 プレ大会 社会科公開授業（3～6年）会場校実践

〈分かる段階の話し合いの場面の設定：3年 川瀬教諭の実践について〉

【実践のねらい】

あんの生産工場働く人々の思いや願いと、あんの消費量が減ってきている現状を比較して考えることは、あん作りに対する関心を高めることができるか。

【実践の成果と課題】

生産工場働く人々が工夫したり努力したりしている理由を話し合い、働く人々の思いや願いをインタビューしたビデオを視聴する活動を行った。児童は、これまでの学習を振り返りながら意欲的に話し合うことができ、ビデオの視聴を通して働く人々の思いや願いに共感することができた。そのため、あん生産の現状から消費量の増加に対する切実な願いをもった。

〈関わる段階の話し合いの場面の設定：6年 甲斐教諭の実践について〉

【実践のねらい】

意思表示板とネームプレートを活用して、市民・市役所・議会のどの立場が大切かを話し合うことは、これからの政治に対する自分の関わり方を考えることにつながるか。

【実践の成果と課題】

児童一人一人が自分の立場を明らかにするために、ネームプレートを意思表示板に貼って、話し合いをした。友達の考えを聞いて、立場を変える際にも、その理由を明確にすることができた。この話し合いを基に、全ての児童はこれからの政治に対する自分の関わり方を考えることはできたが、関わり方の内容やその根拠を検討することで、さらに明確な関わり方を考えることができるであろう。

【早稲田大学教授 藤井 千春氏による指導講評】

学び合いの授業づくりの3つのポイントとして、①探究（自分の生活経験、既有知識を基に考える）②協働（みんなで、学級集団の教育力を育てる）③振り返り（自分の見方や考え方の変化に気付く）が大切である。特に、協働に向けての指導上の留意点としては、「子どもの発言は助けない、もう一度言い直さない、みんなで考えた上での新しい発見を大切に評価する、つぶやきを大切にする、すぐ正解を求めない、間違えを大切にする」などである。高学年ほど、仲間からの評価が必要であり、自信につながる。こうした経験が、協働的な学びを促進することにつながる。

10月31日（土）御器所小学校 プレ大会 社会科公開授業（3～6年）会場校実践

〈関わる段階の話し合いの場面の設定：6年 佐野先生の実践について〉

【実践のねらい】

本丸御殿復元に関わる現状と課題から、テーマについて話し合い、行政・市民・企業の中で誰が何を行ってあげばよいのか、自分の立場を明確にして考えることができる。

【実践の成果と課題】

「名古屋城の入場者数を増やすために、だれが、どのようにしてあげばよいのか」について話し合う場面である。まず、本丸御殿の復元実現に向けて「関心が低い」「観光客が少ない」などの課題に向けて、「行政がCMやHPで本丸御殿のすばらしさをPRするとよい」など、意思表示板に立場ごとの取り組みを貼り、考えを共有した。その後、子どもたちは同じ立場や違う立場から、賛成、付け足しをしながら、ハンドサインで意思表示をし、相互指名をすることで様々な考えが出され、活発な話し合いとなった。テーマに沿って話し合うことで、自分の考えと友達の考えを比較・関連付けながら、課題に対して「だれが、どのように」取り組んであげばよいのかについて自分の考えをまとめることができた。



【自分の考えを提案する児童】

〈関わる段階の話し合いの場面の設定：5年 相澤先生の実践について〉

【実践のねらい】

災害時の物資不足等を解決するために、だれがどう取り組むかを話し合う中で公助・共助・自助が相互に関わり合うことで、解決していくことに気付かせる。

【実践の成果と課題】

今までの学習で分かったことを振り返りながら、国・県や市、地域が相互に結びついていることを基に、災害時の課題解決には公助に限界があり、共助・自助が重要であることを理解した。災害時、自分も含め地域がどう取り組んだらいいのかを子ども自ら考えるようになった。課題を自分ごととして社会に関わろうとする子どもの姿が見られた。

【國學院大學教授 安野 功氏による指導講評】

「共に生き合う」のテーマであるなら、共に学び合う学習活動、協働学習のことに触れる必要があるのではないかと。協働学習に向けてのポイントとして、子どもが子どもに向けて発言する姿、子どもの生の声を使って考える場面、前時の自分の考えを振り返り、子どもの発言からスタート場面などを考えてほしい。また、学習形態として、ペア、グループ、全体など目的にあった形態を工夫するとよい。子どもたちが話し合いたいという必然性をもたせていくことも大切なことである。

【11月～12月】

社会科公開授業における児童の変容分析、それを基にした改善点の検討
平成28年度の全国大会に向けた10月の社会科授業の改訂版の指導案作成
6月プレ実践に向けての指導案作成、教材検討
教材・教具、学習環境の検討 会場校の環境整備についての検討

【1月～3月】

実践単元の指導計画、授業での児童の変容分析、分析を基にした改善点の検討
プレ公開授業単元の実践まとめ

3 成果と課題

- 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 澤井 陽介氏、早稲田大学教授 藤井 千春氏、國學院大學教授 安野 功氏の指導講評を基に、平成28年度全国小学校社会科研究協議会研究大会名古屋大会の理論の見直しを行い、名古屋大会の主張点を明確にすることができた。
- 澤井 陽介氏による社会科講演会では、これからの社会科授業づくりや次期学習指導要領の方向性、学習の見通しと振り返りの大切さについて指導をいただき、社会科授業づくりの参考となった。
- 会場校の研究協力委員、会場校授業者との学年別研究協議を行い、授業実践後の分析・今後の改善についてまとめることができた。平成28年度の全小社研名古屋大会に向けて、単元の構想や本時の指導を見直すことができた。